

ふくふくファンド 2008 年度 助成事業報告書

2009 年 4 月 30 日

団体名（ふりがな）	とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人	まなびのたねねっとわーく まなびのたねネットワーク
企画名	ビデオカメラ・バッテリー・三脚・動画編集ソフトの購入	
連絡担当者お名前（ふりがな）	まつむら 松村	まりこ 真理子
<p>助成金を使って行った事業について、記述してください。 （活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください）</p> <p>①キャリア教育の授業、講座の記録</p> <p>○キャリア教育の授業・市民センターでの講座の記録としての活用。 仙台市内の小学校 6 校、太白区市民センター主催の「地域が理解 キャリア教育って何？」（2008 年 20 年 10 月 26 日実施）での、記録に活用した。</p> <p>○経済産業省「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業」での 記録作成。（講座受講者・スタッフのスキルアップ） 教育に興味のある市民を対象に下記 2 箇所の市民センターで実施した、講座での記 録として活用した。定員 20 名に対し、受講申込者 53 名、OJT を含めた修了者は 18 名であった。</p> <p>《仙台市泉区中央市民センター》 第 1 回 2008 年 11 月 22 日（土） 第 2 回 2008 年 12 月 13 日（土） （第 2 回のみ太白区中央市民センターでの開催） 第 3 回 2009 年 1 月 17 日（土）</p> <p>《仙台市太白区中央市民センター》 第 1 回 2008 年 11 月 29 日（土） 第 2 回 2008 年 12 月 20 日（土） 第 3 回 2009 年 1 月 24 日（土）</p> <p>《受講者開発プログラム実証編》 【講 師】 仙台市内の靴屋店主 【対 象】 6 年生 56 名 【ね ら い】 職業によって靴が違うこと、自分に合った靴を選ぶ大切さなどを通 して、一人ひとり違って良いということに気づく。 【子どもの声】 仕事をしている人は、誰かを助けるため、役に立つためだけでなくそれ を実感して楽しんでやっていくものなんだと思った。 くつ屋さんが、他の人と違っていいと言っていた。私は、人に流されて しまうので、自分を大切にしようと思う。</p>		



【講座の様子】



【実証授業を見学する受講者】

助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)

○経済産業省「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」事業の授業記録作成
県内・市内 43 校にて小学校 5・6 年生の理科授業に企業講師を派遣した。授業ではサポートにも入るため、授業記録が所々で抜けてしまっていたが、ビデオを活用することによって、誰がみても、何をしたのかが分かる記録を作成することができた。

※ 授業記録については別添資料ご参照。

※ 参考 WEB ページ <http://www.shakaijin-koshi.net/>



【プレゼンテーションの様子】

②講座受講者、スタッフのスキルアップ

キャリア教育コーディネーター養成講座では、受講者がプログラムを開発し、その中から学校のニーズとマッチしたものを実証として実際の授業で実施することとなっていた。どのプログラムを実証するかを検討にあたり、ビデオ記録が参考になった。また、当日参加できなかったメンバー同士の情報共有としても活用することができた。改めて見直してみると、投げかけている言葉に参加があまり反応していなかったり、あるいはその時反応を見逃していたりすることを確認することができ、気づきが多かった。ファシリテート、コーディネートのあり方についてそれぞれ学ぶことができた。

③情報公開ツールの充実

現在、「ろうきん地域貢献ファンド」の助成を受けて、WEB サイトと顧客対象別パンフレットの制作を実施した。その中で紹介したプログラムへの理解がより深まるよう、動画を作成したかったが、それに適した撮影の機会が、得られなかった。また、撮影したものについて、撮影対象者への確認が不十分であったため、新しい素材での作成が困難となり、過去の素材と組み合わせて作成することになってしまった。21 年度は、丁寧な素材集めをし、引き続きコンテンツを増やしていきたい。

今回の事業によって、団体全体の活動にどのような成果・効果がありましたか

広報ツールの作成に関しては、動画の情報が、当団体の活動の理解に有効だと、講座で動画を活用したときに実感することができた。また、スタッフ間においても、動画で自分や他者のファシリテーション、プレゼンテーションを見ることで、客観的に活動を振り返ることができ、間の取り方や質問のタイミングなど、その後の授業に活かすことができた。講座記録では、動画記録があったからこそ、第三者がみても分かりやすい授業記録や講座記録（ニュースレター）を作成することができた。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。また、その際に必要なものは何ですか

2009年度は、新たに学生ボランティアを集めたいと考えている。当団体の強みであるワークショップ（参加型体験学習）と動画ツールを今年度実施する講座の中で組み合わせ、当団体への積極的なボランティア参加を促したい。そして、教育現場から期待されている役割などを、具体的に示したいと考えている。

そのためにも今後は、動画をより広報ツールとして活用できるよう、周りの方々（撮影対象者）への配慮を最優先にして撮影を行い、素材集めを細やかに行っていく。特に、撮影時には、この動画が「どこで」「どのように」活用されるのか使用目的を、明確に撮影対象者に伝えることに細心の注意を払っていきたい。また、内部研修用として、動画を積極的に活用していきたい。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ファンド助成金	100,000	
合計	100,000	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
ビデオカメラ	49,800	
バッテリー	17,500	
三脚	3,980	
動画編集ソフト	13,100	
延長保障の加入	2,490	
返金	13,130	
合計	100,000	

宮城県労働者福祉協議会様へのメッセージをどうぞ。

当団体は慢性的な人材不足で記録が疎かになりがちでしたが、今回この助成を受けたことで、記録がしっかり取れ、振り返りに活用できました。今回助成を頂いた今後とも当団体のスキルアップのために、内・外部研修や広報に活用していきます。それが、やがては根本的な課題である資金不足と人材不足の解消に繋がると考えています。ご支援本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。